

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1271100776
法人名	特定非営利活動法人ピースケア
事業所名	グループホーム大地の家
所在地	〒292-0004 千葉県木更津市久津間2-1112-2 (電話) 0438-41-7663

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年12月5日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(19年11月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤7人, 非常勤2人, 常勤換算6.9人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他	食費45,000+水光熱費13,000+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:20ヶ月)	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	550 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	7名	男性	4名	女性	3名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 80歳	最低	72歳	最高	90歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福王台外科内科
---------	---------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木更津市のグループホーム大地の家は、JR内房線巖根駅からバス、あるいは東京湾アクアライン金田出口から車で3分程度のところに位置している。ホーム所有の畑が有り、そこで入居者と職員が丹精こめて育てた野菜は、木更津の海の幸とともにホームの食卓をにぎわしている。ホームではメリーと言う名前の犬を飼っており、入居者の楽しみとなっている。地域とのつきあいも良好で、家庭的かつ温かみに溢れたホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	食事のメニューは栄養士の意見を取り入れて作成するようにした。室内の温度は20度の設定を基準にし、自然の陽光も取り入れて、快適な温度を保つように気を配っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を作成している。前回指摘された改善項目は、行動目標にして取り組みを進めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1回の頻度で行われている。市役所職員、民生委員、地域包括支援センター、入居者家族等が出席している。内容は主に入居者の個別状況についてである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居者の暮らしぶりは、毎月お手紙で家族に伝えている。写真入りのホームだよりである「大地の家通信」も発行し、行事の様子等を知らせている。苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣近所とのおつきあいが自然な形で行われている。旅行に行った家からおみやげが届き、ホームもおみやげを渡したり、近所から野菜が届けられたりしている。

2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「痴呆によって、自立した生活が困難になった入居者に対して、家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の世話・心身の昨日訓練を行い、入居者が自立した日常生活を営めるよう、支援できることを目的にする理念」と重要事項説明書に記載されている。		痴呆という言葉を認知症に改めるとともに、もう少しホームの独自性を表した理念を作成されることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時および月1回の全体会議において、理念をもとに話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏は地域のラジオ体操に参加、花火大会にも出かけている。地元の人から野菜を頂いたり、近所の人から旅行のお土産をもらったりすることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価で指摘された項目については、少しずつ改善に向けた取組みがされている。自己評価票は職員で話し合って作成した。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月毎に実施され、市役所職員、民生委員、地域包括支援センター、入居者とそのご家族などの出席があった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉課より月に1回担当者の訪問が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料の請求時に生活のお手紙も添えている。行事等の案内もされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面談は入居のアセスメント時に十分時間をかけて行っている。多くの家族が気にかけるのは終末期の対応についてであり、ホームとして出来る範囲を十分説明しご理解を得ている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の離職を最小限にするため十分な話し合いの場を設けている。新しい職員は必ず入居者に紹介し、最初は馴染みのベテラン職員とペアでケアを行うように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会からの研修には、職員が交代で参加している。研修に参加した職員は、その内容を全職員にフィードバックするようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	袖ヶ浦市、市原市にあるグループホームと交流会を開いている。ホームで取れた野菜を差し上げたりして、親交を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居時には職員がアセスメントに出向き、入居者の状況の確認を行っている。入居後は2～3週間は、本人の動きに合わせて、馴れるまでゆっくりゆったり対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者が昔していた仕事の話聞き、職員は多くのことを学んでいるという。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの希望や意向の把握が個人記録に記入され、介護計画に反映されている。管理者は入居者の生活歴や趣味を考慮してできるだけ希望に沿うよう支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>現場職員の気付きや意見は、毎月の会議で聴取している。ケアマネジャーは他の職員や家族の意見を聞きながら介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の変更が必要となった場合、入居者、ご家族、職員で話し合いをして随時、プランの変更を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、緊急入院、墓参りなどの付き添いは、臨機応変に職員が対応している。管理者には携帯電話で常に連絡が取れるようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的な持病の治療は、ご家族にかかりつけ医への通院介助をお願いしている。ホームの協力医をかかりつけにすることもできる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで出来る介護の範囲を、契約時に十分説明しており、転居先をご家族に紹介している。重度化を想定した話し合いは、入居者本人、ご家族、主治医、職員とで、早い段階から行われている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者には尊厳を持って公平に接すること、恥をかかせない対応に気を配っている。個人情報に関する書類は鍵のかかる場所で厳重に管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活している意味を入居者に説明し、理解を求め、言葉かけで様子を見ながら、一人ひとりの生活のリズムを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる入居者には、食事の準備や後片付けに参加してもらい、特別な日は献立を相談する。職員は入居者と同じ食卓で、さりげない介助をしながら、楽しい雰囲気ですべてをこなしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	寒い時期は週2回を目安に、暑い時期は入浴希望者が増えるので、入居者と相談しながら順番や時間を決め、皆が入れるよう支援している。夜間の自由な入浴は職員の人数の関係もあり、対応が難しい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度、犬の世話、車椅子の掃除、畑仕事など入居者の能力と好みに応じた役割を設定している。入居者の経歴や好きな事を職員は把握しており、無理強いするのではなく、生活に張り合いの持てる支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩やスーパーへの買い物、庭やホームの畑に出かけるよう、職員が声かけしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中、鍵をかけないで開放している。職員は入居者の状況をよく把握して、一人で外に行ってしまうまいよう、気をつけて見守りしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの至近に消防署がある。避難訓練は隔月で実施している。法人代表ともすぐに連絡が取れる体制となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ人の助言を仰ぎ、バランスの取れた献立を考えている。食事量や水分量は記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の音、明るさ、臭いなどに気になる点はない。入居者がゆったり落ち着いて過ごせるよう、安全や装飾に配慮し、生活しやすい環境が保たれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇、思い出の品々が持ち込まれ、くつろいで過ごせるように配慮されている。		